

プログラム

1日目：10月3日（木）

研究奨励賞受賞者講演

時 間： 14:10～14:25 A会場 （5階 大ホール）
講演者：大西貴弘（国立医薬品食品衛生研究所）
演 題：クドア食中毒における原因究明と病態発現機構解析に関する研究

特別講演

時 間： 14:30～15:20 A会場 （5階 大ホール）
講演者：藤井建夫（東京家政大学）
演 題：腐敗と発酵のはざまの研究生活で垣間見たもの
司 会：木村 凡（東京海洋大学）

教育講演 1

時 間： 15:30～16:20 A会場 （5階 大ホール）
講演者：吉浪 誠（イカリ消毒株式会社）
演 題：食品製造現場におけるカビ汚染の原因究明と対策
司 会：小西良子（麻布大学）

シンポジウム 1 「世界的に注目される食中毒微生物の最先端研究——生態学的視点を中心に」

時 間： 16:30～18:35 A会場 （5階 大ホール）
司 会：木村 凡（東京海洋大学）、五十君 静信（国立医薬品食品衛生研究所）

- ① 密接にかかわる腸管出血性大腸菌の病原性と生存戦略——ドイツの腸管出血性大腸菌 0104 食中毒から見えてきたこと
山崎伸二（大阪府立大学）（16:30～16:55）
- ② カンピロバクターとヒトとの戦い——人類は多様な生存戦略を持つカンピロバクターを防除できるのか？——
三澤尚明（宮崎大学）（16:55～17:20）
- ③ 世界の家畜、環境、人をめぐるサルモネラの最新動向
森田幸雄（東京家政大学）（17:20～17:45）
- ④ ノロウイルスの生き残り戦略に関する最新の知見
野田 衛（国立医薬品食品衛生研究所）（17:45～18:10）
- ⑤ 検証：なぜ日本の腸炎ビブリオ食中毒は減少したのか？
工藤由起子（国立医薬品食品衛生研究所）（18:10～18:35）

トピックス

時 間： 18:35～18:50 A会場 （5階 大ホール）
演 題：ICMSF 日本委員会の設立について
講演者：小久保彌太郎（公益社団法人日本食品衛生協会）

2日目：10月4日（金）

教育講演 2

時 間：13:10～14:00 A会場 (5階 大ホール)

講演者：泉谷秀昌 (国立感染症研究所)

演 題：食品を介した抗生物質耐性菌の世界的感染拡大について

司 会：甲斐明美 (東京都健康安全センター)

教育講演 3

時 間：14:10～15:00 A会場 (5階 大ホール)

講演者：大槻公一 (京都産業大学)

演 題：鳥インフルエンザウイルス ——その生態、新型インフルエンザウイルスへの変異メカニズム、農場から食卓までの安全管理

司 会：久田 孝 (東京海洋大学)

シンポジウム 2 「食品微生物の基礎知識の再構築」

時 間：15:10～16:50 A会場 (5階 大ホール)

司 会：川本 伸一 (食品総合研究所)、上田 成子 (女子栄養大)

- ① 意外と盲点—検査培地の選択/識別の基本原理の理解
水落慎吾 (日水製薬株式会社) (15:10～15:35)
- ② 主要な保存料・日持ち向上剤の抗菌メカニズム—どこまで解明されているか？
小磯博昭 (三栄源エフ・エフ・アイ株式会社) (15:35～16:00)
- ③ 野菜の洗浄・殺菌の最新技術と見落としがちな盲点
福崎智司 (三重大学) (16:00～16:25)
- ④ 新しい分子生物学的手法の応用と今後の展望
高橋 肇 (東京海洋大学) (16:25～16:50)

優秀発表賞・優秀ポスター賞表彰

時 間：16:50～17:05 A会場 (5階 大ホール)

一般講演

第1日目 10月3日(木)

A会場(大ホール)

9:30~10:00 座長:三澤尚明(宮崎大学)

- A-01 *Campylobacter jejuni* のPCR型別法の有効性検討
○山田和弘^{1,2)}, 井畑亜仁¹⁾, 鈴木匡弘¹⁾, 松本昌門¹⁾, 山下照夫¹⁾, 倉根隆一郎²⁾, 皆川洋子¹⁾
(愛知県衛生研究所¹⁾, 中部大学応用生物科学研究科²⁾,)
- A-02 鶏肉由来 *Campylobacter jejuni/coli* のフルオロキノロン系抗菌薬への感受性
○小島千明^{1,2)}, 駒場新³⁾, 岸本満^{2,3)}, 江崎孝行¹⁾
(岐阜大学大学院 医学系研究科¹⁾, 名古屋学芸大学 管理栄養学部²⁾, 名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究科³⁾)
- A-03 熊本県で発生した *Escherichia albertii* による食中毒事例について
○古川真斗¹⁾, 福司山郁恵¹⁾, 奥田将之²⁾, 松尾繁²⁾, 郷博臣²⁾, 大岡唯祐³⁾, 林哲也³⁾, 原田誠也¹⁾
(熊本県保健環境科学研究所¹⁾, 熊本県水俣保健所²⁾, 宮崎大学医学部医学科³⁾)

10:00~10:30 座長:工藤由起子(国立医薬品食品衛生研究所)

- A-04 集団下痢症患者および生食用鶏肉から分離された *Escherichia albertii* の性状解析
○松田正法¹⁾, 麻生嶋七美¹⁾, 重村久美子¹⁾, 徳島智子¹⁾, 本田己喜子¹⁾, 吉田英弘¹⁾, 樋脇弘²⁾, 緒方喜久代³⁾, 小田隆弘⁴⁾
(福岡市保健環境研究所¹⁾, 福岡市動物園²⁾, 大分県衛生環境研究センター³⁾, 中村学園大学短期大学部⁴⁾)
- A-05 ウシ由来 STEC の遺伝学的特徴と系統的關係について
○中村寛海¹⁾, 井口純²⁾, 藤原淳史³⁾, 伊豫田淳⁴⁾, 長谷篤¹⁾, 小笠原準¹⁾
(大阪市環科研¹⁾, 宮崎大 IR²⁾, 大阪市食検³⁾, 感染研細菌第一⁴⁾)
- A-06 “*E. coli* O-genotyping PCR” の実用性評価
○秋吉充子¹⁾, 井口純¹⁾, 伊豫田淳²⁾, 勢戸和子³⁾, 大西真²⁾
(宮崎大学¹⁾, 感染研²⁾, 大阪府公衛研³⁾)

10:30~11:00 座長:神吉政史(大阪府公衛研)

- A-07 国内3地域における腸管出血性大腸菌 O157 株の Clade 分布の比較
○平井晋一郎¹⁾, 横山栄二¹⁾, 江藤良樹²⁾, 瀬戸順次³⁾, 市原祥子²⁾, 前田詠里子²⁾, 堀川和美²⁾
(千葉県衛研¹⁾, 福岡県保環研²⁾, 山形県衛研³⁾)

- A-08 複数のリアルタイム PCR 機器を用いた食品培養液中ベロ毒素遺伝子検出感度の検討
○小西典子¹⁾, 森哲也²⁾, 中川 弘³⁾, 大塚佳代子⁴⁾, 小林直樹⁵⁾, 長尾清香⁵⁾, 甲斐明美¹⁾, 工藤由起子⁵⁾,
(東京都健康安全センター¹⁾, (財)東京顕微鏡院²⁾, (株)BML フード・サイエンス³⁾, 埼玉衛研⁴⁾, 国立衛研⁵⁾)
- A-09 腸管出血性大腸菌を対象とした糞便検体用の分離培地「E-MAC II 寒天培地」の食品検体への応用
○加藤孝広¹⁾, 木津 学¹⁾, 市川睦憲¹⁾, 中川 弘²⁾
(株式会社 アイサイエンス¹⁾, 株式会社 BML フードサイエンス²⁾)
- 11:00~11:40 座長: 中村寛海(大阪市環科研)**
- A-10 食品からの免疫磁気ビーズを用いた腸管出血性大腸菌 026、0111、0157 の一斉検出法
○神吉政史, 勢戸和子, 久米田裕子,
(大阪府立公衆衛生研究所)
- A-11 食品及び食物繊維のベロ毒素吸着性
○横井川久己男¹⁾, 遠 牧子²⁾, 武政二郎³⁾
(徳島大学大学院¹⁾, 神戸女子短期大学²⁾, 日研生物医学研究所³⁾)
- A-12 HEp-2 細胞に対して特異な凝集接着を示す腸管毒素原性大腸菌 0169:H41 の病原性プラスミドの DNA シークエンス
○坂瑛里香¹⁾, 吉田優香¹⁾, 和田崇之²⁾, 市川直樹¹⁾, 濱端 崇³⁾, 輪島丈明⁴⁾, 西川禎一¹⁾
(大阪市立大学¹⁾, 長崎大学²⁾, 国立国際医療研究センター³⁾, 北里大学⁴⁾)
- A-13 JR 飛騨ミートのデータを用いた Moving Window によるサンプリング計画の評価
○豊福 肇¹⁾, 小林光士²⁾, 下出敏樹²⁾, 牛丸藤彦²⁾, 小野寺仁²⁾
(山口大学共同獣医学部¹⁾, JA 飛騨ミート²⁾)

B 会場 (小ホール)

- 9:30~10:00 座長: 上田成子(女子栄養大学)**
- B-01 ME-RFLP を用いた腸内細菌科の迅速検出・同定法
○駒場 新¹⁾, 小島千明²⁾, 岸本 満^{1,2)}
(名古屋学芸大学栄養科学研究科¹⁾, 名古屋学芸大学管理栄養学部²⁾)
- B-02 電流検出型 DNA チップを用いた食中毒原因菌の簡易自動検査技術の開発
○稲田美雅¹⁾, 橋本みちえ¹⁾, 橋本幸二¹⁾, 岡田 純¹⁾, 高橋匡慶¹⁾, 後藤浩朗¹⁾, 源間信弘¹⁾, 小嶋由香²⁾, 湯澤栄子²⁾, 清水亜希子²⁾, 佐藤弘康²⁾, 石川真理子²⁾, 清水英明²⁾, 岩瀬耕一²⁾, 岡部信彦²⁾
(株式会社東芝¹⁾, 川崎市健康安全研究所²⁾)
- B-03 NASBA-核酸クロマト法によるセレウリド産生菌の簡易検出法の確立ー各種試料への適応ー
○小松原英介¹⁾, 宇治家武史¹⁾, 林 司¹⁾, 浅野桃子²⁾, 西川禎一²⁾, 鎌田洋一³⁾
(株式会社カインス¹⁾, 大阪市立大学大学院生活科学研究科²⁾, 岩手大学農学部共同獣医学科³⁾)

10:00~10:30 座長：川崎 晋(食品総合研究所)

- B-04 食品における食中毒起因菌の遺伝子検出法に関する研究
ー検体の増菌培養法およびDNA抽出法についてー
○北川恵美子, 加藤真美, 浅田征彦, 川上慶子
(石川県保健環境センター)
- B-05 半日で判定可能なサルモネラ迅速検査法の検討
○行縄陽介¹⁾, 北澤秀基¹⁾, 盛田隆行¹⁾, 上橋健三²⁾
(日清オイリオグループ株式会社¹⁾, デュポン株式会社²⁾)
- B-06 液卵工場におけるサルモネラ迅速検出法の検討(第2報)
○三浦恭子, 佐藤美紀, 宮下 隆
(キューピー株式会社)

10:30~11:00 座長：西川禎一(大阪市立大学)

- B-07 界面活性剤抽出処理とRT-LAMP法を用いたクリプトスポリジウムRNAの高感度検出
○関川貴寛
(静岡県大・環境研)
- B-08 ミトコンドリアDNAを標的としたナナホシクドア検出法の開発
○陳内理生¹⁾, 原田哲也¹⁾, 河合高生¹⁾, 黒田 誠²⁾, 竹内史比古²⁾, 久米田裕子¹⁾
(大阪府立公衆衛生研究所¹⁾, 国立感染症研究所²⁾)
- B-09 乳のみマウスを使用した*Kudoa septempunctata*の下痢原性に関する研究(4)
○河合高生¹⁾, 原田哲也¹⁾, 陳内理生¹⁾, 大西貴弘²⁾, 小西良子³⁾, 久米田裕子¹⁾
(公衛研¹⁾, 国立衛研²⁾, 麻布大³⁾)

11:00~11:40 座長：河合高生(公衛研)

- B-10 メジマグロに寄生するクドア属摂取後の便への経時的排出状況
○川瀬雅雄, 角田由紀子, 細谷美佳子, 紫竹美和子, 吉岡 丹
(新潟県保健環境科学研究所)
- B-11 近縁種*Cladosporium sphaerospermum*および*Cladosporium halotolerans*の識別を可能にする生化学的同定指標の検討
○小林直樹, 渡辺麻衣子, 工藤由起子
(国立衛研)
- B-12 PCR法による*Talaromyces*属の検出
○山下哲史¹⁾, 中川弘之²⁾, 阪口利文¹⁾, 有馬寿英¹⁾, 枳穀 豊²⁾
(県立広島大学¹⁾, アヲハタ株式会社²⁾)
- B-13 甘酒づくりにおける麹菌や米の種類および発酵条件等の検討
○原 菜月, 小塚 諭
(至学館大学大学院)

一般講演

第2日目 10月4日(金)

A会場(大ホール)

9:20~10:00 座長:黒木俊郎(神奈川衛研)

A-14 IS-printing Systemの行政対応への有効活用について
○佐々木麻里, 成松浩志, 緒方喜久代, 小河正雄
(大分県衛生環境研究センター)

A-15 肥育牛と廃用牛腸管外臓器の細菌汚染状況
○城間 健¹⁾, 藤元英樹²⁾, 徳田祐二³⁾, 西谷 篤⁴⁾, 中馬猛久¹⁾
(鹿児島大学共同獣医学部¹⁾, 鹿児島県末吉食肉衛生検査所²⁾, 志布志食肉衛生検査所³⁾, 鹿児島大学遺伝子実験施設⁴⁾)

A-16 市販生食用鶏肉の食中毒菌検出状況
○重村久美子¹⁾, 松田正法¹⁾, 麻生嶋七美¹⁾, 徳島智子¹⁾, 本田己喜子¹⁾, 吉田英弘¹⁾, 桶脇 弘²⁾
(福岡市保健環境研究所¹⁾, 福岡市動物園²⁾)

A-17 当センターが分析した食品及び拭取り材料の細菌学的汚染状況
○小林彩香, 福島さやか, 澤村健一, 中川 弘
(株)BMLフード・サイエンス)

10:00~10:40 座長:中川 弘(BMLフード・サイエンス)

A-18 市販生肉、生鮮魚介類および魚介加工品における *Listeria monocytogenes* の分布状況
○神吉政史, 久米田裕子
(公衛研)

A-19 ヒトふん便における新型エンテロトキシン産生ウエルシュ菌の保有状況
○門間千枝¹⁾, 赤瀬 悟¹⁾, 石塚理恵¹⁾, 齊木 大¹⁾, 小西典子¹⁾, 横山敬子¹⁾, 仲真晶子¹⁾, 鎌田洋一²⁾, 甲斐明美¹⁾
(東京都健康安全研究センター¹⁾, 岩手大学²⁾)

A-20 東京都で発生した *Yersinia enterocolitica* 08群による集団下痢症2事例
○石塚理恵, 小西典子, 横山敬子, 齊木 大, 赤瀬 悟, 門間千枝, 井田美樹, 下島優香子, 仲真晶子, 甲斐明美
(東京都健安研センター)

A-21 ヒトおよび鶏関係検体から分離された *Salmonella Infantis* の次世代シーケンサーによる系統解析
○横山栄二¹⁾, 村上光一²⁾, 志波優³⁾, 村上覚史⁴⁾
(千葉県衛研¹⁾, 福岡県保環研²⁾, 東京農大・ゲノムセンター³⁾, 東京農大・家畜衛生⁴⁾)

B会場（小ホール）

9:20~10:00 座長：野田 衛（医薬品食品衛生研究所）

- B-14 抗ノロウイルス作用を有する柿渋を含む植物素材の作用機序の解析
○神本真紀¹⁾，中井義昭²⁾，辻 徹²⁾，島本 敏¹⁾，島本 整¹⁾
（広島大・院・生物圏科学・食品衛生¹⁾，アルタン（株）²⁾）
- B-15 ノロウイルス検便検査における BL-NV ‘栄研’ のスクリーニング性能評価
○武田正嗣¹⁾，林 麻貴¹⁾，酒巻 望²⁾，大廣義幸²⁾，高安 進²⁾，中川 弘¹⁾
（（株）BML フード・サイエンス¹⁾，栄研化学（株）²⁾）
- B-16 調理従事者等の糞便を用いたノロウイルス検査「BL-NV ‘栄研’」の有用性評価
○及川 悟¹⁾，八田守貴¹⁾，佐々木睦美¹⁾，大廣義幸²⁾，大島 進²⁾，高安 進²⁾，太田建爾¹⁾
（株式会社町田予防衛生研究所¹⁾，栄研化学株式会社²⁾）
- B-17 食品従事者糞便を対象とした生物発光酵素免疫測定法(BLEIA)によるノロウイルス検出法の検証
○高田 瞬¹⁾，馬場洋一¹⁾，岡元 満¹⁾，佐藤登紀子²⁾，鈴木 渉²⁾，大廣義幸²⁾，高安 進²⁾，
林田瑞穂¹⁾，伊藤武¹⁾
（東京顕微鏡院¹⁾，栄研化学株式会社²⁾）

10:00~10:40 座長：林 志直（東京都健康安全研究センター）

- B-18 エコーウイルス9型定量系によるノロウイルス通知法の評価
○溝口嘉範^{1,2)}，木田浩司¹⁾，磯田美穂子¹⁾，濱野雅子¹⁾，藤井理津志¹⁾，岸本壽男¹⁾，
上間 匡³⁾，野田 衛³⁾
（岡山県環境保健センター¹⁾，岡山市保健所²⁾，国立医薬品食品衛生研究所³⁾）
- B-19 ノロウイルスの感染性推定遺伝子検査の開発と応用
○上間 匡¹⁾，三元昌美¹⁾，青沼えり²⁾，栞原慶隆²⁾，野田 衛¹⁾
（国立医薬品食品衛生研究所¹⁾，明治薬科大学²⁾）
- B-20 食品検体からパンソルビン・トラップ法で抽出したノロウイルス RNA の検出系に関する検討
○斎藤博之¹⁾，東方美保²⁾，岡智一郎³⁾，片山和彦³⁾，田中智之⁴⁾，野田衛⁵⁾
（秋田県健康環境セ¹⁾，福井県衛生環境研究セ²⁾，国立感染研³⁾，堺市衛研⁴⁾，国立衛研⁵⁾）
- B-21 インフルエンザウイルスアプタマーの取得及びそれを用いた検出系の構築
○白鳥行大¹⁾，秋富 穰¹⁾，David Boltz²⁾，古市真木雄¹⁾，堀井克紀¹⁾，和賀 巖¹⁾
（NECソフト株式会社¹⁾，イリノイ工科大学²⁾）

F 会場（桃源）

9：20～9：50 座長：仲真晶子（東京都健康安全研究センター）

- F-01 新規ブドウ球菌エンテロトキシン様毒素が食中毒を引き起こすか
○胡東 良¹，小野久弥²，今西健一³，諫山遵志¹，大森英明¹，岡村雅史¹，中根明夫²
（北里大・獣医・人獣共通¹，弘前大・院医・感染生体防御²，東京女子医大・微生物免疫³）
- F-02 食品由来黄色ブドウ球菌におけるエンテロトキシン(SE/SE1)遺伝子の検出ならびに SE/SE1
遺伝子に及ぼす次亜塩素酸ナトリウムの影響
○森川容子¹，氏峰菜里¹，齊藤峰輝²，山田作夫^{1,2}
（川崎医福大・臨床栄養¹，川崎医大・微生物学²）
- F-03 *Bacillus cereus* 産生毒素セレウリドの簡易検出法の検討
○浅野桃子¹，池田高紀²，切畑光統³，古澤直人¹，鎌田洋一⁴，西川禎一¹
（大阪市立大学¹，帝塚山学院大学²，大阪府立大学³，国立医薬品食品衛生研究所⁴）

9：50～10：20 座長：田中廣行（日本食品分析センター）

- F-04 食肉加工工場における細菌叢の解析
○宮崎祥典¹，國武広一郎¹，國分伸紘¹，松浦潤一¹，盛田隆行¹，岡部和彦¹，
中島和英²，石崎直人³，堂ヶ崎知格³，小西良子³
（攝津製油株式会社¹，東京食肉安全検査センター²，麻布大学生命・環境科学部³）
- F-05 食肉加工工場における最適な洗浄・除菌方法に関する検討
○國武広一郎¹，國分伸紘¹，松浦潤一¹，宮崎祥典¹，盛田隆行¹，岡部和彦¹，
中島和英¹，石崎直人³，堂ヶ崎知格³，小西良子³
（攝津製油株式会社¹，東京食肉安全検査センター²，麻布大学生命・環境科学部³）
- F-06 微酸性水の生食野菜の殺菌効果に関する研究
上田成子，○山口真波，赤星文月，飯田ありさ
（女子栄養大学・衛生学教室）

10：20～10：50 座長：宮本敬久（九州大学）

- F-07 食中毒細菌に対する植物抽出液と制御因子の併用効果
○前田 倫，Mak Lee-Ming，黄 怡芬，加藤義啓，中野宏幸
（広島大・生物圏科学・食品衛生）
- F-08 黄色ブドウ球菌に対する次亜塩素酸ナトリウムの抗菌効果および作用機序
○氏峰菜里¹，福辻賢治²，刀祢重信³，齊藤峰輝⁴，山田作夫^{1,4}
（川崎医福大・臨床栄養¹，川崎医科大学・耳鼻咽喉科学²，川崎医科大学・生化学³，
川崎医科大学・微生物⁴）
- F-09 市販野菜・果物より単離したグラム陰性細菌の薬剤耐性化機構の解析
○田中大貴¹，山本瑞季¹，島本 敏²，島本 整²
（広島大・生物生産・食品衛生学¹，広島大・院・生物圏・食品衛生学²）

一般講演（ポスター発表）

1階 展示ホール

ポスター展示：10月3日（木）9：00～10月4日（金）15：00

ポスター討論：10月4日（金）10：50～11：50

- P-01 家畜肝臓の食中毒菌汚染状況調査
○佐々木貴正¹⁾，春名美香¹⁾，五島朋子¹⁾，村上真理子¹⁾，林田瑞穂²⁾，森 哲也²⁾，
和田真太郎²⁾，山田友紀子¹⁾
(農水省消費・安全局¹⁾，東京顕微鏡院²⁾)
- P-02 欧米諸国における腸管出血性大腸菌 0157 アウトブレイク (2006～2011)
○天沼宏，窪田邦宏，春日文子
(国立衛研)
- P-03 腸管侵入性大腸菌が原因と疑われた腸管毒素原性大腸菌 06 による集団食中毒について
○山本新也¹⁾，石黒亜基子¹⁾，鈴木 勝¹⁾，墨岡成治²⁾，藤岡正信²⁾，青木日出美³⁾，
山崎 貢⁴⁾，鈴木匡弘⁵⁾，松本昌門⁵⁾，伊藤健一郎⁶⁾
(豊橋市衛生研究所¹⁾，豊橋市保健所²⁾，愛知県半田保健所³⁾，愛知県一宮保健所⁴⁾，
愛知県衛生研究所⁵⁾，国立感染症研究所⁶⁾)
- P-04 島根県内に流通するウズラ卵のサルモネラによる汚染状況について
○川上優太，川瀬遵，樫本孝史，角森ヨシエ，黒崎守人，佐藤浩二
(島根県保健環境科学研究所)
- P-05 *E. coli* 0-genotyping PCR により判定できなかった STEC 株の 0 抗原コード領域の解析
○井口 純¹⁾，秋吉充子¹⁾，伊豫田淳²⁾，勢戸和子³⁾，大西 真²⁾
(宮崎大学¹⁾，感染研²⁾，大阪府公衛研³⁾)
- P-06 腸管病原性大腸菌の病原因子 intimin の機能解析
○三宅眞実，吉崎康二郎，南優姫，星英之
(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)
- P-07 大腸菌の 0 抗原特異的遺伝子を対象としたマルチプレックスリアルタイム PCR 法の検討
○長尾清香，小林直樹，工藤由起子
(国衛研)
- P-08 肉用牛の腸管出血性大腸菌およびカンピロバクターの汚染低減化のための基礎調査
～汚染実態調査と分離菌株の分子疫学解析～
○和田真太郎，森 哲也，岸野かなえ，横田春海，鄒碧 珍，伊藤 武
(一財)東京顕微鏡院)
- P-09 東京都内で流通する食肉におけるバンコマイシン耐性腸球菌の検出状況
○西野由香里，井田美樹，下島優香子，猪股光司，高野智香，黒田寿美代，奥野ルミ，
仲真晶子，甲斐明美
(東京都健康安全研究センター微生物部)

- P-10 各種食品における *Cronobacter* spp. の汚染実態
○福田典子¹⁾, 藤原 翠¹⁾, 伊東悠志¹⁾, 石塚理恵¹⁾, 荻原博和¹⁾, 五十君静信²⁾
(日本大学 生物資源¹⁾, 国衛研²⁾)
- P-11 24-Hour Test System for the Detection of *Salmonella* spp. on Environmental Surfaces
Meredith I. Sutzko¹⁾, Ann-Christine O. Allen¹⁾, Verapaz Gonzalez¹⁾,
Mark T. Muldoon¹⁾, ○ LiMien Tan¹⁾, 森田 裕²⁾
(Romer Labs.¹⁾, アヅマックス(株)²⁾)
- P-12 細胞単離ディスク中での PCR による食肉中のサルモネラ菌の迅速検出
○鍛冶屋光俊¹⁾, 古谷俊介²⁾, 聖前直樹¹⁾, 永井秀典²⁾, 久保いづみ¹⁾
(創価大学大学院 工学研究科生命情報工学専攻¹⁾, 産総研²⁾)
- P-13 細胞単離ディスクを用いた PCR によるセレウス菌の迅速検出法の確立
○新井一幸¹⁾, 古谷俊介²⁾, 青山由利¹⁾, 久保いづみ¹⁾,
(創価大院工¹⁾, 産総研²⁾)
- P-14 ユニバーサル核酸抽出法を適用した複数微生物の同時簡易迅速検出システム
○茂木豪介, 三森祐示, 蓼沼 崇, 田口朋之, 田名網健雄, 羽田聖治
(横河電機 (株))
- P-15 EMA-qPCR 法による乳酸菌等グラム陽性菌の生菌迅速検出
○久保恵子, 吉崎美和, 棚瀬智雄, 北川正成
(タカラバイオ株式会社 バイオ研究所)
- P-16 SYBR Green I を用いた multiplex qPCR による黄色ブドウ球菌エンテロトキシン遺伝子
検査法の検討
○池田徹也, 久保亜希子, 小川恵子, 長瀬敏之, 森本 洋, 清水俊一
(北海道衛研)
- P-17 D-QUICK を使用した LAMP 法の判定
○依田知子, 原田哲也, 久米田裕子
(大阪府立公衆衛生研究所)
- P-18 リステリア菌の MLVA 法に用いる VNTR 領域の安定性について
○河原俊雄, 高橋 肇, 久田 孝, 木村 凡
(東京海洋大学)
- P-19 はっ酵乳及び乳製品乳酸菌飲料における酵母の迅速計測
○佐々木康彦¹⁾, 竹内郁雄¹⁾, 渡邊祐介¹⁾, 稲波久雄²⁾
((株) 日立パワーソリューションズ¹⁾, (株) 日立製作所²⁾)
- P-20 マイクロプレートを用いた DNA-DNA ハイブリダイゼーションによる *Fusarium* 属菌近縁種間
における全ゲノム塩基配列比較手法の検討
○渡辺麻衣子¹⁾, 後藤慶一²⁾, 小西良子³⁾, 鎌田洋一⁴⁾, 工藤由起子¹⁾
(国立衛研¹⁾, 三井農林²⁾, 麻布大³⁾, 岩手大⁴⁾)
- P-21 ゼリー状飲料の細菌試験における課題
○森 哲也¹⁾, 市川希美¹⁾, 難波豊彦¹⁾, 吉成知也²⁾, 工藤由起子²⁾
(一般財団法人東京顕微鏡院¹⁾, 国立医薬品食品衛生研究所²⁾)

- P-22 東南アジアのタイにおける養殖二枚貝と腸炎ビブリオ汚染
○中口義次, 西淵光昭
(京大東南アジア研)
- P-23 Q (Quenching) プローブを用いた LAMP 法によるノロウイルスの検出
○植木洋¹⁾, 木村俊介¹⁾, 鈴木優子¹⁾, 阿部美和¹⁾, 佐藤俊郎¹⁾, 真砂佳史²⁾, 大村達夫²⁾
(宮城県保健環境センター¹⁾, 東北大学未来科学技術共同研究センター²⁾)
- P-24 食品、環境中からのノロウイルスの検出法の検討
○岩切 章, 阿波野祥司, 山田 亨, 永野喬子, 大浦裕子
(宮城県衛生環境研究所)
- P-25 ウイルスの食品検査の精度管理に関する基礎的研究
○青沼えり¹⁾, 上間 匡²⁾, 野田 衛²⁾
(明治薬科大学¹⁾, 国立医薬品食品衛生研究所²⁾)
- P-26 専門家の意見を解析する手法(expert elicitation)を用いた食品由来疾患の食品寄与率推定
○熊谷優子¹⁾, 大田えりか²⁾, 大西俊郎³⁾, 渋谷健司⁴⁾, 関崎 勉¹⁾
(東京大学大学院¹⁾, 成育医療センター研究所²⁾, 九州大学大学院³⁾, 東京大学大学院⁴⁾)
- P-27 異なるサーベイランスデータからの食中毒被害実態推定の比較
○窪田邦宏¹⁾, 天沼 宏¹⁾, 小林正裕²⁾, 松木信幸²⁾, 桜井芳明³⁾, 小松真由美³⁾,
柳沢英二⁴⁾, 坂上武文⁴⁾, 滝 将太⁴⁾, 霧島正浩⁵⁾, 渋谷俊介⁶⁾, 春日文子¹⁾
(国立衛研¹⁾, 仙台市衛生研究所²⁾, 宮城県医師会健康センター³⁾,
(株)ミクロメディカルラボラトリー⁴⁾, ビー・エム・エル⁵⁾,
三菱メディエンス株式会社⁶⁾)
- P-28 核酸クロマト技術を応用したペロ毒素遺伝子簡易検査キットの開発
○寺尾義孝, 竹下佳那, 西山泰孝, 森下直樹, 松本貴之, 森松文毅
(日本ハム(株))

ランチオンセミナー

1日目：10月3日（木）

1. タカラバイオ株式会社

時 間：12：00～13：00 C会場 （2階 瑞雲）
講演者：井口 純 先生（宮崎大学 IR 推進機構 特任助教）
演 題：微生物ゲノム研究を検査現場へフィードバックさせるには

2. デュポン株式会社

時 間：12：00～13：00 D会場 （2階 平安）
講演者：小沼博隆 先生（公益社団法人日本食品衛生協会 学術顧問）
演 題：食品のサルモネラ食中毒リスク管理

3. イルミナ株式会社

時 間：12：00～13：00 E会場 （2階 福寿）
講演者：関 典広 （イルミナ株式会社 マーケティング部）
演 題：次世代シーケンサーMiSeq を使った新たな食品微生物の同定方法の挑戦

2日目：10月4日（金）

1. メルク株式会社

時 間：12：00～13：00 C会場 （2階 瑞雲）
講演者：上田成子 先生（女子栄養大学 教授）
演 題：食品微生物における迅速検査について

2. シスメックス・ビオメリュー株式会社

時 間：12：00～13：00 D会場 （2階 平安）
講演者：浅尾 努 先生（一般財団法人日本食品分析センター 学術顧問）
演 題：微生物試験法ができるまで –サルモネラ ISO/TS 6579 を例として–

3. 株式会社GSIクレオス

時 間：12：00～13：00 E会場 （2階 福寿）
講演者：山本茂貴 先生（東海大学海洋学部 教授）
演 題：生食される食品の衛生管理